

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2006年11月中旬から12月中旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 11月中旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場: 漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 11月中旬は、中位水準でゆるやかに減少する。11月下旬以降は低位水準となる。12月中旬には断続的となり、ほぼ終漁となる。

(2) 漁場: 11月中旬は、大船渡～金華山沖が主漁場となる。11月下旬以降は、南部が主漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月中旬は増加し、高位水準となる。11月下旬には減少を始め、12月上旬以降は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月中旬～下旬は、請戸～鹿島灘が主漁場となる。12月上旬以降は、鹿島灘が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量				
	動向	断続的			
	漁 場				
三陸海域	来遊量				
	動向	中位減少	低位減少	低位水準	低位水準
	漁 場	大船渡沖 ～金華山沖	南部	南部	南部
常磐海域	来遊量				
	動向	高位増加	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	請戸沖～鹿島灘	請戸沖～鹿島灘	鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10 月下旬を下回り、前年並みの低水準となった。日別 CPUE(1 網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南沖～厚岸大黒島南南東沖であった。

落石南沖～厚岸大黒島南南東沖の 65～180 海里付近(表面水温 9～14℃)では、小型船が数隻～40 隻と大型船が数隻操業。大型船で 10～80 トン程度漁獲した。

襟裳岬東北東沖の 30 海里付近(表面水温 12～15℃)では、22 日夜のみ小型船が 20 隻程度と大型船が数隻操業。大型船でも 10 トン程度しか漁獲出来なかった。

(3) 魚体

31cm モードの大型魚と 25～27cm モードの中型魚主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10 月中旬を下回ったものの、前年並みの高位水準であった。日別 CPUE から判断すると、来遊量は減少傾向であった。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、久慈～気仙沼沖であった。

久慈東北東～大船渡東南東沖 15～75 海里付近(表面水温 13～17℃)では、連日大型船が数隻～30 隻操業。65～100 トン以上漁獲する船が多かった。

(3) 魚体

29～31cm モードの大型魚主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10 月中旬を上回ったものの、前年を下回る低位水準であった。日別 CPUE から判断すると、期後半にやや増加した。

(2) 漁場

常磐海域の主漁場は、請戸～小名浜沖であった。

請戸東南東～小名浜東沖 15～40 海里付近(表面水温 13～18℃)では、27 日夜以降、小型船数隻と大型船 10 程度操業。大型船で数トン～80 トン程度漁獲した。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚主体。